

答申書を受けて考える墨田区における“こどもまんなか”について

駒沢女子短期大学・保育科
准教授 古屋 真

1. 政策形成・評価のプロセスについて

保育における指導計画の作成 (文部科学省, 2013・2021)	デジタル時代にふさわしい 政策形成・評価の在り方に関する提言 (総務省, 2022)	墨田区子ども・子育て会議における 取り組み
①各園の教育・保育課程	—	①こども大綱(こども家庭庁, 2023)
①発達理解 ★幼児の実態(興味関心, 経験…)	①政策立案の段階 ・データ等に基づく現状把握と課題 設定	①墨田区の政策立案 ★子ども・子育て支援ニーズ調査 ★こどもの意見聴取
◆教師(大人)の思い +周囲の環境		◆令和5年度答申書
②計画立案 ・具体的なねらいと内容の設定 ・環境の構成 ・活動する幼児の姿と教師の援助の 予想	・データ等に基づく政策手段の検討 ・政策目的と政策手段の関連性の明 確化	★◆墨田区のこども政策の目標は? ★◆その目標を達成する手段は?
+評価の観点の設定	・政策評価指標の設定 ・データ把握方法・時期等の設定	※政策評価指標は? ※確認方法と時期は?
	②政策の決定 ・各種基本計画等の策定	②子ども・子育て支援総合計画の策 定
③実践と評価 ・保育の展開	実施	実施
・反省や評価 → ①(②)へ	③モニタリング・検証	③モニタリング・検証
	④改善	④改善

⇒本年度は、①現状把握の段階であった。

次年度は、政策目標(≡評価指標)や内容(手段)を精査しつつ、②子ども・子育て支援総合計画を策定する

2. 現状把握と課題設定

★子ども・子育て支援ニーズ調査

★こどもの意見聴取

⇒こどもの思い(ニーズ)は?どうやって意見聴取するのか?≡こども視点の目標

◆令和5年度答申書（課題設定）

- ・乳幼児：[配慮が必要な子ども（療育）] [多子世帯] [在宅子育て] [小1の壁] [子育て支援のDX]
[保育の質向上]
- ・学齢期：[配慮が必要な子ども（社会的養護）] [不登校] [ヤングケアラー]
[子どもの育ちを支える環境] [居場所]

※墨田区らしさ（墨田区基本計画）

- ・歴史・文化のまちという「伝統」
- ・すみだで暮らしている「誇り」
- ・すみだに集う人の「温かさ」

⇒大人の思いは？墨田区の強み（独自性）は？≡大人視点の目標

3. 政策評価指標（墨田区の“こどもまんなか”とは何か？）

◎墨田区が好きな気持ち…

◎主観的幸福感（伊藤・相良・池田・川浦，2003）：心の健康度

- ・人生に対する前向きな気持ち
- ・自信
- ・達成感
- ・人生に対する失望感（反転概念）
- ・至福感

◎「こどもまんなか社会」の実現に向けた数値目標（こども家庭庁，2023）

[引用・参考文献]

伊藤裕子・相良順子・池田政子・川浦康至（2003）主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討，心理学研究，74（3），pp.276-281.

こども家庭庁こども政策推進会議（2023）『こども大綱』

文部科学省（2013）『指導計画の作成と保育の展開』

文部科学省（2021）『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』

総務省政策評価審議会（2022）『デジタル時代にふさわしい政策形成・評価の在り方に関する提言』

「こどもまんなか社会」の実現に向けた数値目標

本文第1の「3 こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」の実現に向け、こども・若者や子育て当事者の視点に立った数値目標（アウトカム）として、以下を設定する。

項目	目標	現状	出典
「こどもまんなか社会の実現に向かってい る」と思う人の割合	70%	15.7% (2023 年) (注1)	こども家庭庁「こども政策の 推進に関する意識調査」
「生活に満足している」と思うこどもの割合	70%	60.8% (2022 年) (注2)	OECD「生徒の学習到達度 調査（PISA）」
「今の自分が好きだ」と思うこども・若者の 割合（自己肯定感の高さ）	70%	60.0% (2022 年) (注3)	こども家庭庁「こども・若者 の意識と生活に関する調査」 (注4)
社会的スキルを身につけているこどもの割合	80%	74.2% (2022 年) (注5)	OECD「生徒の学習到達度 調査（PISA）」
「自分には自分らしさというものがある」と 思うこども・若者の割合	90%	84.1% (2022 年) (注6)	こども家庭庁「こども・若者 の意識と生活に関する調査」
「どこかに助けてくれる人がいる」と思うこ ども・若者の割合	現状 維持	97.1% (2022 年) (注7)	こども家庭庁「こども・若者 の意識と生活に関する調査」
「社会生活や日常生活を円滑に送ることがで きている」と思うこども・若者の割合	70%	51.5% (2022 年) (注8)	こども家庭庁「こども・若者 の意識と生活に関する調査」
「こども政策に関して自身の意見が聴いても らえている」と思うこども・若者の割合	70%	20.3% (2023 年) (注9)	こども家庭庁「こども政策の 推進に関する意識調査」
「自分の将来について明るい希望がある」と 思うこども・若者の割合	80%	66.4% (2022 年) (注10)	こども家庭庁「こども・若者 の意識と生活に関する調査」
「自国の将来は明るい」と思うこども・若者 の割合	55%	31.0% (2018 年) (注11)	こども家庭庁「我が国と諸外 国の若者の意識に関する調 査」(注12)
「結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会 の実現に向かってい」と思う人の割合	70%	27.8% (2023 年) (注13)	こども家庭庁「こども政策の 推進に関する意識調査」
「こどもの世話や看病について頼れる人がい る」と思う子育て当事者の割合	90%	83.1% (2022 年) (注14)	国立社会保障・人口問題研究 所「生活と支え合いに関する 調査」よりこども家庭庁作成

注1：16～49歳の回答結果。

注2：0～10の選択肢で7以上と答えた15歳の割合。OECD平均は61.4%（2022年）。

注3：15～39歳の回答結果。

注4：調査実施当時は内閣府所管。

注5：「学校ではすぐに友達ができる」という設問に「まったくその通りだ」又は「その通りだ」を選んだ15歳の割合。OECD平均は74.6%（2022年）。

注6：15～39歳の回答結果。

注7：15～39歳の回答結果。「家族・親族」、「学校で出会った友人」、「職場・アルバイト関係の人」、「地域の人」及び「インターネット上における人やグループ」の全てについて、「困ったときは助けてくれる」に対して「そう思わない」又は「どちらかといえば、そう思わない」と回答した者（無回答者を含む。）の割合を全体から減じた割合。

注8：15～39歳の回答結果。「あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況がありますか。」に対して「なかった（ない）」又は「どちらかといえば、なかった（ない）」と回答した者の割合。

注9：16～29歳の回答結果。

注10：15～39歳の回答結果。

注11：13～29歳の回答結果。調査対象国全体での平均は52.8%。

注12：調査実施当時は内閣府所管。

注13：16～49歳の回答結果。

注14：18歳未満のこどもがある世帯の者のうち「頼れる人（子どもの世話や看病）の有無」について「いる」と回答した割合。